令和 4 年度　東京都内湾水生生物調査 11 月成魚調査速報

●実施状況

令和 4 年 11 月 17 日に成魚調査を実施した。調査当日は小潮で、干潮が 4 時 47 分、満潮が 12 時 23 分であった（気象庁のデータ）。調査当日の透明度は 4.0～7.1m であった。また、いずれの地点においても赤潮や貧酸素状態は確認されなかった。

	St.35		St.25		St.22		St.10	
作業時刻	10:11-11:34		10:34-12:28		12:36-13:25		12:34-14:14	
水深（m）	26.4		14.3		14.6		7.4	
天候	晴		晴		晴		晴	
気温（℃）	18.8		18.0		19.2		18.4	
風向/風速(m/sec)	-/0.0		NE/2.6		NW/0.8		N/2.7	
波浪(m)	0.3		0.2		0.2		0.2	
透明度(m)	7.1		4.0		6.8		5.9	
観測層	上層	下層	上層	下層	上層	下層	上層	下層
水温(℃)	17.5	19.0	16.8	19.0	17.6	18.4	17.7	18.0
塩分（－）	31.8	33.2	26.9	33.1	30.7	32.5	30.7	31.9
DO(mg/L)	7.3	5.5	7.6	4.3	7.7	5.4	6.8	5.5
DO飽和度(%)	92.2	72.7	92.8	56.4	96.7	69.3	85.5	70.9
pH（－）	8.0	8.0	7.9	8.0	8.0	8.0	8.0	8.0
水の臭気	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし	なし
備考								

観測層：上層（0m）・下層（海底面上 1m）

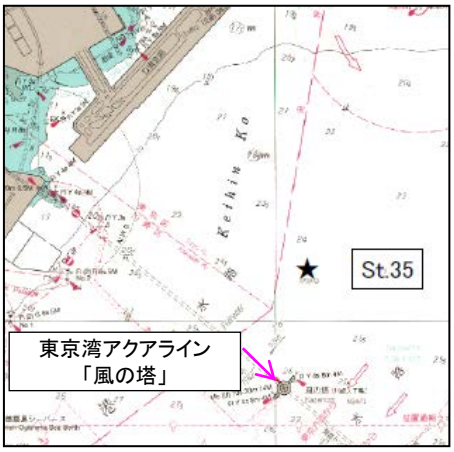
●主な出現種等　（速報なので、種名等は未確定です。）

主な出現種等	St.35	St.25	St.22	St.10
魚類	コモチジャコ(+) ハタタテヌメリ(+) テンジクダイ(r) マコガレイ(r)	テンジクダイ(r) アカエイ(r) マコガレイ(r)	アカエイ(r) マゴチ(r) マコガレイ(r) マハゼ(r)	マゴチ(r)
魚類以外（目立った種）	オウギゴカイ(c) シャコ(c)	エビジャコ属(+) シャコ(r)	エビジャコ属(+) シャコ(+)	ホンビノスガイ(+) エビジャコ属(r)
備考	上記の他、マハゼ、ダンゴイカ科、スナヒトデ、数種のカニ等が確認された。	上記の他、ホンビノスガイ、ダンゴイカ科、タイワンガザミ、ヒメガザミ等が確認された。	上記の他、ホンビノスガイ、ダンゴイカ科、クシノハクモヒトデ、サメハダヘイケガニ等が確認された。	上記の他、アカガイ、サルボウ、シマメノウフネガイ、イッカククモガニ等が確認された。

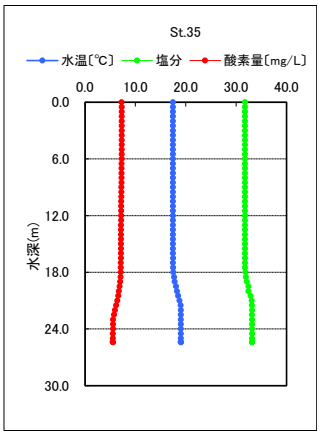
注）表中の（　）内の記号は大まかな個体数を表す。
G:1000 個体以上、m:100～1000 個体未満、c:20～100 個体未満、+:5-20 個体未満、r:5 個体未満

調査地点：St.35

調査地点位置



水質状況



地点状況

南側には東京湾アクアライン「風の塔」が見える。

採取試料

比較的深所の泥底から砂泥底に生息するハゼの仲間。東京湾全域から出現記録があるが、現在は主に湾奥に分布する。

主な出現種　※写真のスケール 1 目盛：1mm

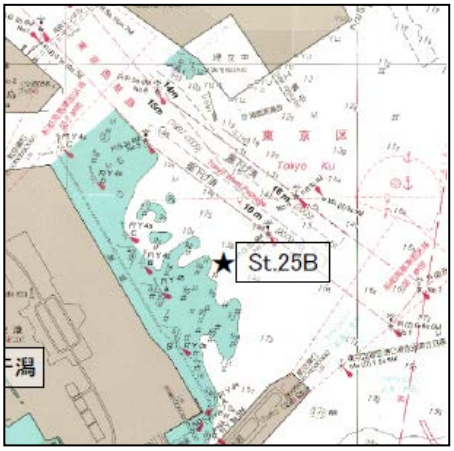
全長 14 ㎝程になる。夏は湾央部のやや深い場所に生息し、秋から春にかけて湾奥部にも分布する。オスの前部背びれにある軟条（ひれの軟らかいスジ）は糸状に長く伸びる。東京湾ではメゴチと呼ばれる。

東京湾以南の水深 80m までの浅所に生息する小型のガザミ類。ワタリガニの仲間で、とても平べったい。

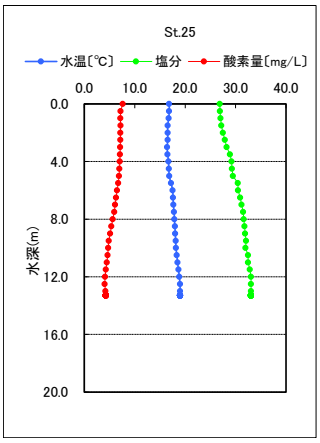
体長 15cm 程になる。水深 30～50m の砂泥地に U 字形の巣穴を掘って生息している。肉食性で、魚類や甲殻類、多毛類等を強大な捕脚を用い捕食する。

調査地点：St.25

調査地点位置



水質状況



地点状況

西側には東京国際空港が見える。

採取試料

海で暮らす生物にとって、沈む落ち葉も大切な生活の場になる。この葉にはフジツボやイソギンチャクの仲間、ダンゴイカ目の卵が付着していた。

主な出現種　※写真のスケール 1 目盛：1mm

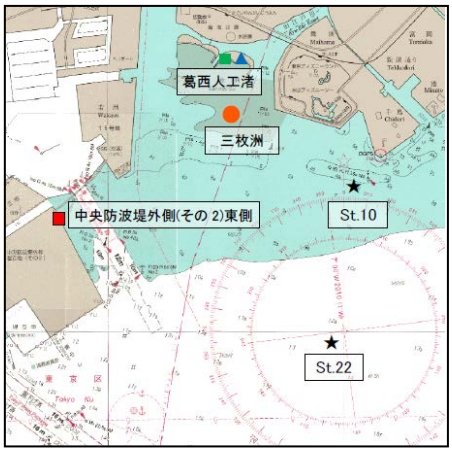
東京湾全域に出現し、特に湾奥に多い。砂泥底に生息して甲殻類等を食べる。繁殖期は7～10 月で、親魚が卵を口の中にくわえて、孵化するまで保護する習性を持つ。

浅い砂泥底に生息し、全長 45cm 程に成長する。成魚は夏季には湾央のやや深場の砂泥域に分布するが、秋季から春季にかけては湾奥にも出現する。この分布変化は夏季の貧酸素水塊の発生に関連すると考えられる。

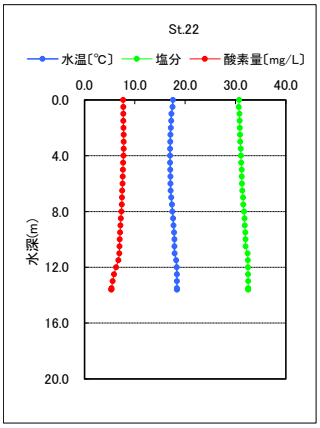
千葉県以南の内湾の深さ 40m までの砂泥域に棲む。甲幅は最大 20 cm程になり、成熟した雄は、脚が鮮やかな青～紫色、甲には明瞭な白斑が現れる。2000 年代以降東京湾で数を増やしている。

調査地点：St.22

調査地点位置



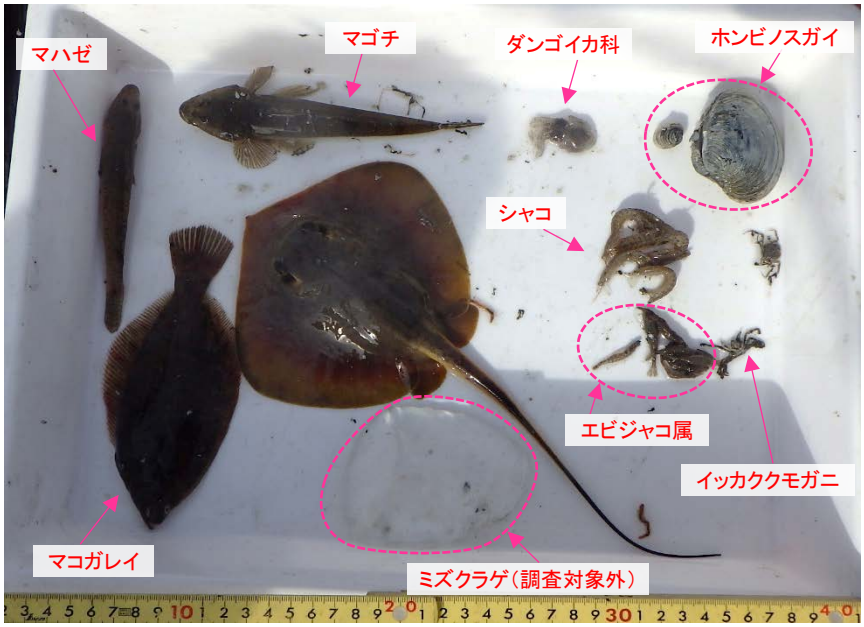
水質状況



地点状況

北西側には東京ゲートブリッジが見える。

採取試料



褐色の帯が入る平べったい体が特徴。内湾や河口域の水深 30m 以浅の砂泥底に生息し、底生生物や小型の魚類を食べる。稚魚は干潟域等の浅所で生活し、成長とともに深所へと移動する。

主な出現種　※写真のスケール 1 目盛：1mm

アカエイ

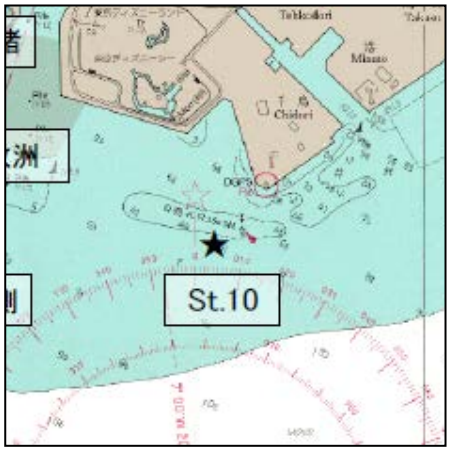
東京湾で最も普通にみられるエイの仲間。胸びれで海底をあおいで掘り起こし、隠れている甲殻類や多毛類等を食べる。尾部にノコギリ状の棘（毒針）を持ち、刺されると危険。

東京湾を代表する魚の一つ。内湾や河口域の砂泥底に生息する。稚魚は初夏から秋にかけてゴカイや甲殻類を食べて成長し、徐々に深所へと移動する。

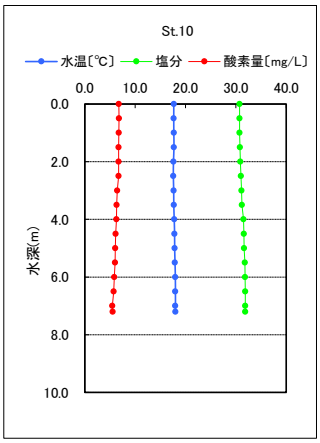
丸みを帯びた胴と丸い耳のようなひれを持つ小型のイカ類。活発に泳ぎ回らず、海底付近で生活する。夜行性であり、昼間は砂泥中に潜っている。

調査地点：St.10

調査地点位置



水質状況



地点状況

北側には、東京ディズニーリゾートが見える。

採取試料

両種とも内湾の水深約 20m までの砂泥底に生息する。稚貝の時期は足糸で海藻等に付着して過ごすが、成長するに従い砂泥地に潜り込む。よく似ているが、殻表面のスジの数で区別できる(サルボウ 32 本、アカガイ 42 本)。

主な出現種　※写真のスケール 1 目盛：1mm

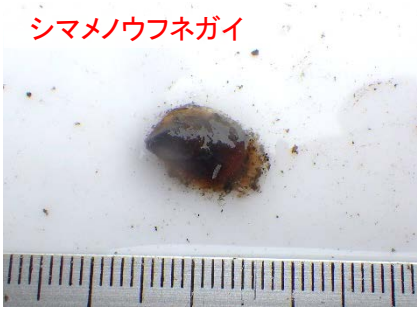
マゴチ

※解説は St.22 を参照。

エビジャコ属

内湾の砂泥底に生息し、普段はごく浅く潜って隠れている。体色は周囲の環境に合わせて変化する。小さな体の割に獰猛で、稚魚等を捕食する。

シマメノウフネガイ



殻長 5cm を超える、「スリッパ」型の形状をした巻貝。主に他の貝類の殻上に付着して生活する。北米原産の外来種で、現在日本において分布域を拡大している。